

# 仕事づくりチャレンジ大賞 2012

## ～元気だ状プロジェクト～

高知工科大学  
3回生 山口上陽

この企画には、自分の無力感を実感しそれをきっかけにインターンシップという形で企業実習を行い結果に結びついたものだと実感しました。

東日本大震災で被災された方々に「あけましておめでとう。」という形で年賀状を送ることは、どこか申し訳ない気持ちというか温度差の感じざるを得ないもので送るのが厳しい中で「元気だ状」という自分は元気だということやありがとうと伝えるという形で年賀状の代わりに被災地の知人に送付するものとして企画されました。

そしてここで驚くべきなのは、これを企画したのが株式会社につこう社にインターンシップで参加した大阪大学の**学生**だということです。

私自身、東北にボランティアとして支援活動を行いました。現地の被災された方々と交流することで一人の力では何もできないただ無力さを感じるだけでした。そのような中で同じ学生である方が、プロジェクトを立案し被災地に貢献するというのは自分には思いもつかない形でとても素晴らしいと思いました。またプロジェクトとは、企業においてプラスの面がありなお且つ社会貢献がなされなければならないもので相互的なものが無ければいけないものです。それを学生が考え被災地にも貢献していることは、素晴らしいくとでも簡単にできることではないと思いました。

また、この活動は東日本大震災だけでなく被災というのはもっといろいろなことが含まれ考えられると思います。例えば、熊本県で起きた豪雨による被害や各地の台風被害を受けた地域にも同様なことが考えられると思います。おめでとうというのは難しい状況であってもありがとうや元気ですと伝えられるこのプロジェクトは今後全国へと広がっていくと思います。

最後に今回仕事づくりチャレンジ大賞 2012に参加してみて、学生記者プロジェクトであったり海外進出を目指すウェディングプランのプロジェクトであったり多種多様な企画がありその中にさらにそれぞれアイデアがありそれを行ってきた学生であったり若手企業家であったりそのような人々は信念や目標があると感じられとても参考になりました。また高知大学の教授でCBIを通して学生にきっかけを与えている活動の説明の中に

## 「チャレンジとは、脱・常識である。」

私は、その言葉にとっても共感できその通りかもしれないと感じました。そのような新たな発見や知れたことで今回参加でき非常にためになり今後活かしたいと思いました。